

会 議 概 要

●開催概要	
名 称	新バスシステムに関する説明会（万代地域コミュニティ協議会）
日 時	平成 25 年 11 月 12 日（火）午後 7 時から午後 8 時 15 分
場 所	東新潟コミュニティセンター 2 階 コミュニティスペース
説 明 者	新潟市都市政策部新交通推進課、都市交通政策課 新潟交通株式会社
参加者	13 名
●会議内容	
<p>(1) これまでの説明の概要について（新潟市）</p> <p>(2) これまでの意見等に基づいた対応・方針について（新潟市、新潟交通株式会社）</p> <p>(3) 9 月に実施した試験走行の結果について（新潟市）</p> <p>(4) 運行事業協定の組み立てについて（新潟市）</p> <p>(5) 質疑応答 ★発言者 ○新潟市発言 ●新潟交通株式会社発言</p> <p>★発言者 1（男性）</p> <ul style="list-style-type: none">・先月、新潟日報に BRT の入札の記事が出ていたが、BRT を導入することは決定したのか。 <p>○新潟市</p> <ul style="list-style-type: none">・12 月議会で BRT の車両を購入する契約を結んでいいということになれば、新潟市として BRT 事業をやっていくことが決まると考えている。今はまだ決まっていない。今、連節バス車両を購入するというので公告をかけているが、仮契約を結んだ形で 12 月議会にあげ、議会の判断をいただく。そこで了承されれば、本契約をして、具体的に事業を開始する。否決された場合は、その後どうしていくかを判断することになるので、今の段階では実施することが本格的に決まったということではない。 <p>★発言者 1（男性）</p> <ul style="list-style-type: none">・決まっていないのであれば、資料 1 の一番最初に、「BRT を導入することにした」という、決定事項のような書き方をしているのはどういうことか。 <p>○新潟市</p> <ul style="list-style-type: none">・市としては実施したいということで、そのような取組みを進めているということである。 <p>★発言者 1（男性）</p> <ul style="list-style-type: none">・私はいろいろなところを回っているが、賛成している人はほとんどいない。バスに乗るのは一般市民であるが、どなたが賛成しているのか。 <p>○新潟市</p> <ul style="list-style-type: none">・2 巡目の区の説明会などでアンケート調査を行い、新バスシステムの取り組みについてご理解いただけたかどうか調べたが、回答者のうち半数程度から理解していると回答をいただいた。	

★発言者 1 (男性)

・新潟市の人口の半数くらいということか。

○新潟市

・説明会に来た人の半数である。

★発言者 1 (男性)

・これに対して関心がある人、例えば今回の説明会に来た人の半数ということか。

○新潟市

・そういうことになる。

★発言者 1 (男性)

・その中の半分が賛成としても、それは新潟市の人口に対してどのくらいのパーセンテージになるのか。新潟市の 80 万人のうちの 0.0000 何パーセントくらいになると思うが。

○新潟市

・アンケートの回答は 160 程度であった。

★発言者 1 (男性)

・そのアンケートの回答で市民が賛成していると思っているのか。

○新潟市

・説明会に来ていただいた方からはご理解いただいたと理解している。

★発言者 1 (男性)

・とりあえず私は反対である。前回の説明会には来なかったが、新潟市のホームページで意見を言おうとしたのだが、市のホームページから BRT のページにすぐにいけなかった。今は見ていないが、一昨年くらいはいくら探してもなかった。

○新潟市

・現在のホームページ上では、新交通推進課のページにアクセスすれば、ご意見をお伝えいただける形になっている。

★発言者 1 (男性)

・今はそうなっているかもしれないが、最初のころは、探してもすぐにはいけなかった。乗る人は一般市民なので、そういった人の意見を聞いたらどうなのか。

○新潟市

・今、バス利用者に対して具体的なアンケートを行う計画を詰めている。

★発言者 1 (男性)

・現在のバス利用者だけではなく、バスに乗る人を増やそうとしているのではないか。乗っている人だけにアンケートをしても、増えていかないのではないか。

○新潟市

・まずはバス利用者が第一段階ということで、そこから行っていく。

★発言者 1 (男性)

・第一段階は利用者であり、第二段階は新潟市民になると思うが。

○新潟市

・その部分も含めて、今後、どのようなアンケートをとるかを検討していきたい。

★発言者 1（男性）

- ・今年のうちに決めると言われていたが、間に合うのか。

○新潟市

- ・私どもとしては、まずバスの利用者の理解度を判断し、今の利用者のご意見を踏まえたくて判断したい。

★発言者 1（男性）

- ・今年の暮れにやるといっているのに、まだアンケートもとっていないこと自体、おかしいのではないか。

○新潟市

- ・11月中にアンケートをとって、その結果を踏まえ、12月に諮っていきたい。

★発言者 1（男性）

- ・また200人、300人のアンケートになるのか。

○新潟市

- ・もう少しとりたいと思っている。

★発言者 1（男性）

- ・バスに乗る人だけではなくて、車に乗っている人の意見も聴くべき。BRTのために二車線もとられて、雪が降ったらどうにもならなくなるのではないか。交通の便がいいときだけBRTを運行して、車線をはみ出した、はみ出さないと言っているが、最悪な季節に、新潟では冬場だが、雪が積もっているときの運行はないのか。

○新潟市

- ・そこは除雪体制をしっかりと、きちんと走らせていきたい。

★発言者 1（男性）

- ・冬場も連節バスを借りてやるのか。

○新潟市

- ・冬場に借りることについては、今の段階では考えていない。

★発言者 1（男性）

- ・できるだけ多くの意見を聞いていただきたい。新潟市民はどれだけいると思っているのか。

★発言者 2（男性）

- ・新潟交通にお聞きしたい。連節バスの必要性についてであるが、今日の資料1の2ページの2番で、「連節バスは不要。まずは普通のバスで、バス路線の再編を進めるべき。」と書いてある。最初は4台で4億9,000万円というところでもないお金であるが、これからどんどん増やしていくとなると相当なお金がかかると思う。このようなお金をかけずとも、新潟交通で現在のバス路線を再編して、利用者を増やすという方向性は考えていないのか。

●新潟交通株式会社

- ・弊社での実施ということであるが、今回、弊社で提案させていただいたバス路線の再編は、まず、お客さまに乗り換えの手間を負担していただくということ

が一つ。乗り換え拠点となる施設を新潟市で造っていただくということが一つ。効率的な輸送形態ということでは連節車両ということで、この三つが前提となる。

- ・弊社が考えるバス路線の再編ということで、今まで長かった路線を短く集約することで運行の効率化を図るということが、今回の提案の趣旨である。これを弊社の自前でできるかということについては、以前からご説明させていただいており、バス事業の部分は収支が非常に厳しい状況にある。当然、弊社としても営業努力はさせていただいているが、今までの長い路線をこのシステムで維持することは厳しい状況の中で、大きな方向転換をしなければならない。
- ・弊社では、高速バス事業を除いた乗合バス事業の収支は、直近の2年間では営業段階での赤字が続いている。こういった状況の中で、弊社が大きな投資をしてバス路線の再編を実施できるかということについては、交通結節点ということも含め、一地方企業としてはなかなか厳しいという状況で、何とかバス路線の再編、大きな方向転換ができないかということを社内で検討していたところ、今回、新潟市から話があった。
- ・弊社としては、購入資金などの初期投資がかからない中でバス路線の再編をすることができ効率化が図れる。それによって収支改善ができることになるのだが、そういった部分で生まれる余力を、潜在需要のある地域の増便、新規路線開設ということでお客さまに還元でき、コストを増加することなく走らせる路線を増やすことができるという部分で新潟市と意見が一致したということで、今回の提案を受けさせていただいた。

★発言者2（男性）

- ・かなりの補助金が入っていると思うが、現在の運行では赤字だから、たまたまBRTという構想に乗るということではなくて、もっと企業努力がなされてもいいのではないかと。現状で赤字というのは分かる。一般企業であれば、赤字だったらどうするかと。黒字にしなければ給料は払えないといったところからスタートすると思う。

●新潟交通株式会社

- ・弊社としてはこれまでもそういった取組みはしてきたのだが、その結果の一つの側面として、収支改善をするため、結果的に採算があっていない路線を切ってしまったことで、交通ネットワークが保てない。そしてまた、お客さまの利用が減ってしまうということで、今の長い路線を今の仕組みで維持していくのはなかなか難しいということで再編を考えている。

★発言者2（男性）

- ・赤字で廃線にするということは乗客が少ないわけだが、そういったところにこそ年配の方が多く、買い物などに行くにも、1日に1本か2本しかない。そういった路線に、今、小さいバスも運行していると思うが、もっと効率のいいバスを運行するなどの手はあると思う。BRTは今後、何十億円の費用になっていくような事業であるのだから、新潟市におんぶに抱っこではなく、新潟交通

は歴史ある企業なのだから、もう少し努力されたいかがか。こういったいい話があったけれども、我が社は単独でやる、というくらいにならないければ。

●新潟交通株式会社

- ・叱咤激励ということで真摯に受け止めさせていただきたい。弊社としての営業努力がまだまだ足りないということもあると思う。ただ、これ以上公共交通の空白地域をつくらないためにも、今回の再編ということで大きな方向転換をしたいと考えている。

★発言者 2（男性）

- ・逆にアンケートをとったらどうか。あなたはどうしたらバスに乗るか。新潟市がBRTのために、わずか数百人の、今バスに乗っている人にアンケートをとる。説明会の参加人数 820 人のうちの 50 パーセントが賛成だと。全体の 0.0000 パーセントの、髪の毛くらいの数の人たちが賛成したからやるというのはどうか。資料 1 では「BRT を導入することとしました」となっているが、この文章でいくと決定である。しかし、12 月議会で決まるということもおっしゃっている。11 月中にアンケートをとると。考える間もなく、とりあえずは仮契約して、4 両を発車させると。これこそ見切り発車である。
- ・急ぐことはないと思う。税金でやられるのだから、有効に利用させていただきたい。1 日に 1 本か 2 本しか通らないバス路線はいっぱいある。こういったところは廃線になっている。そういったところにもっと心を配っていただきたい。
- ・バス事業者としては新潟交通しかないようなので、それはそれでいいと思うが、役所としては、市民のためにこれだけ補助するから、運行状況をよくして市民を救ってあげてほしいと、お互いに相談してやったらどうか。

○新潟市

- ・最初のほうで、市の交通政策である公共交通 3 本の柱の考え方を説明させていただいた。一つは生活交通の改善、一つは都心へのアクセス、もう一つはまちなか交通ということで、生活交通の改善の部分についても取組みを強化している。
- ・例えば住民バス制度があるが、今、市が運行経費の 7 割を補助する形で運行するというのを、市内各所で取組みを進めさせていただいている。そういったところもさらに改善していく。市内全体としていい形にしていく、それは一つどれかをよくするというのではなく、三つ合わせてきちんとやっていくため、生活交通の面も取り組んでいきたいと考えている。

★発言者 2（男性）

- ・何のためのやるのかということは聞いている。しかし、BRT というシステムに多額のお金をかけて、費用対効果の面ではどう思うのか。費用対効果の関係が資料 1 にあるが、連節バス 4 台分の購入予算のほうが安いと。安いのはいいのだが、問題は金額である。4 台で 4 億円と。

○新潟市

- ・4 億 9,000 万円というのは予算である。当時、この予算を組みあげたとき、

自民党政権から民主党政権になったところで、為替が円高から円安に大きく動いている部分があった。円安になると、連節バス自体、日本で作っているところがないので、海外からの輸入ということになるのだが、為替の変動の部分をつどのくらい見るかというところで、多少、為替の変動を踏まえた形で、予算を多めにとっている。実態としては、恐らくここまではかからず、もっと安く収まるのではと考えている。他都市でいえば8,000万円くらいだと聞いているので、そのくらいではないかと考えている。

★発言者 2（男性）

・今日の資料に何台にするかは書いていないが、最終的には何台にして、どのくらいの予算になるのか。

○新潟市

・一番望ましい形では8台を導入し、8台と一般バスを組み合わせることで利用量的にはちょうどいい形になると考えている。その際、予算上では、8台入ると、9億円程度になると考えている。

★発言者 2（男性）

・資料 1 の 5 ページに書いてあるのは、最終的には8台で、6億円から9億円の費用が見込まれるということか。

○新潟市

・そういうことではない。

★発言者 2（男性）

・これは、民間業者に委託する場合か。

○新潟市

・連節バス購入でバスの増便が平日 125 本可能であり、これを民間事業者に委託し、その分のサービス水準を確保すると想定すると、5年間で6億円から9億円がかかってしまうという計算である。

★発言者 2（男性）

・連節バスを8台導入し、その後、BRT に関しては、毎年どのくらい新潟市から新潟交通へ補助金を出すのか。

○新潟市

・基本的には初期投資のみで終わる。

★発言者 2（男性）

・現在、赤字バス路線の補助をされていると思うが、そういうものもなくなるということか。

○新潟市

・現在も周辺地域において利用者が少ないところは、事業者としては独自に運行できないということで、地域の生活の足を確保するために、市が補助金を出して維持している路線がある。

・今回、BRT 事業をやることによって、そういった路線が新たに増えていくのを止めようという考えである。周辺地域の赤字路線についても、今後利用者が増えていけば、市の補助金も少なくなるが、これから人口が減少していく中で、

この状態をある程度維持しながら、利用者の皆様に使っていただき、育てていきたいと考えている。

※ 説明会で出していただいた意見の他、当日提出していただきましたアンケートで、以下のようなご意見をいただきました。

○これまでの説明について

・BRT は不用。

○その他

・若い人はあまり関心が無いと思います。もう少し、説明が必要では？

以上